さいたま市文化財時報

榧（かや）りぽーと

第11号

指定文化財の紹介　―庚申塔―

市内には数多くの石造物がありますが、その中でも庚申塔は700基を超え、14件の庚申塔が市の有形民俗文化財に指定されています。今号は、その指定されている14件の庚申塔を紹介しましょう。

庚申塔の「庚申」とは、十干十二支でいう「かのえさる」のことで、60日に一度めぐってきます。この庚申の夜は、人間の体内にいる三尸（さんし）という虫が人間の眠りに乗じてその罪を天帝に告げるため、その夜眠ると天帝が人の命を短くするとされ、そのため眠らずに過ごして長寿を願うというものです。平安時代の京都の貴族に広まった「守庚申」の行事に仏教や念仏などの信仰が加わり、江戸時代には庶民の間にも普及するようになりました。近隣の人々が集まって講を作り、供養のしるしとして造立したものを数多く見ることができます。

庚申塔には、「青面金剛（しょうめんこんごう）」や「猿」などの像を刻んだ像塔や、「庚申」「庚申塔」「青面金剛」などの文字を刻んだ文字塔がありますが、現存する市内で一番古い庚申塔は見沼区片柳にある寛文元年（1661）に造立されたもので、三猿を浮彫りにした像塔です。

病気や悪魔を払う神とされる「青面金剛」を浮彫りにした庚申塔が一般的ですが、初期の庚申塔では、猿を主尊のように扱ったものも見られます。江戸の中頃になると、青面金剛が主尊として定着し、そのまわりに日輪・月輪・三猿・二鶏・邪鬼が刻まれるようになり、大型のものや彫刻の複雑なものなど、庚申塔はその発展の頂点を極めます。

庚申塔造立の最後のピークは、幕末の万延元年（1860）を中心に迎えます。緑区の清泰寺では、庚申年の万延元年に「庚申塔」と刻まれた高さ約54cmの文字庚申塔300基が一度に造立されています。

▲寛保二年銘の庚申塔（緑区三室）

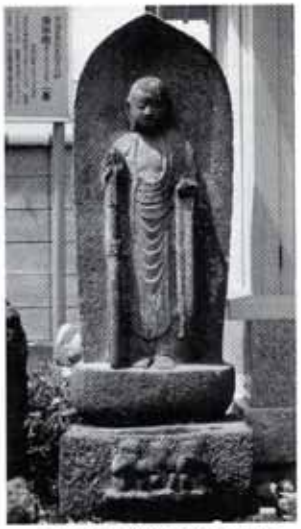
舟形の庚申塔

庚申塔―寛文四甲辰五月廿七日造立ノ銘アリ―（南区大字広ヶ谷戸）

県道さいたま川口線の端に立つこの庚申塔は、高さ120cm、塔身の上半部に二匹の邪鬼を踏む青面金剛の立像を大きく浮彫りにし、左右に二童子、下半部の両端に二体ずつ四夜叉を配し、邪鬼の下に御幣を持つ二匹の猿、その下に二鶏を彫っています。銘文から寛文４年（1664）に造立されたことがわかります。市内では古い時期の庚申塔ですが、この時期のものとしては珍しく、立体的な彫刻が豊富で、にぎやかな構成となっています。

庚申塔―寛文九酉二月日の銘あり―（桜区道場３丁目）

金剛寺の墓地内にあるこの庚申塔は、高さ136cm、左手に宝珠、右手に錫杖を持つ地蔵菩薩立像を浮彫りにしたもので、一見すると地蔵菩薩の石仏のようにみえる庚申塔です。台石に浮彫りされた三猿と地蔵菩薩像の左右に刻まれた銘文から、寛文９年（1669）、道場村の人々により造立された庚申塔であることがわかります。



▲寛文九年銘の庚申塔

笠付角柱の庚申塔

高城寺の庚申塔（西区大字西遊馬）

高城寺境内にある総高171cmのこの庚申塔は、塔身上部中央に三面二臂（３つの顔に２つの手）の火炎光背をもった青面金剛が手に剣と索を持ち、一匹の邪鬼を踏みつけた姿で浮彫りにされています。その両脇に二童子を、下半分には二猿と二鶏を浮彫りにします。寛文３年（1663）３月に植田谷領遊馬村の村民14名が結衆して造立したものです。市内では、一面六臂の青面金剛が多く見られるなか、三面二臂の珍しい作例です。

寛文五年銘の庚申塔（中央区本町西１丁目）

円乗院の境内にある高さ171.5cmの庚申塔です。塔身の中央に三猿を浮彫りし、その上下に「奉造立庚申講結衆」「足立郡与野町」「為二世安楽彫焉」の銘文と13名の講人々の名前を刻んでいます。寛文５年（1665）に立てられた庚申塔で、江戸時代初期に「与野町」と名乗っていたなど当時の様子をうかがうことができます。

庚申塔―寛文九己酉天七月吉日の造立の銘あり―（桜区栄和３丁目）

重円寺の墓地入り口に立つこの庚申塔は、高さ155cm、塔身上部に合掌する一猿の坐像を半浮彫りにしています。銘文からは寛文９年（1669）に立てられたことがわかります。合掌した一猿を主尊のように扱う庚申塔は県内唯一の例です。

庚申塔―寛文九年己酉二月吉日の銘あり―（南区鹿手袋６丁目）

宝泉寺本堂の前にあるこの庚申塔は、高さ175cm、塔身上部に三猿を浮彫りにし、その下に梵字で阿弥陀三尊種子と３行の銘文を刻みます。銘文から寛文９年（1669）に鹿手袋村の９人によって造立されたことがわかります。重円寺の庚申塔と同様、猿を主尊としている例で、庚申塔の変遷を考える上で貴重なものです。

大倭神社の庚申塔（西区三橋６丁目）

大倭神社の境内にある高さ256cmの庚申塔です。丸彫りの青面金剛像が一匹の邪鬼の上に座り、笠の上に乗ります。角柱の塔身部正面に梵字で「ウーン」（青面金剛種子）を刻み、その下に力士と思われる像に担がれた二童子を、台石には三猿と二鶏を浮彫りにします。享保６年（1721）に立てられたもので、県内でも珍しい形態の庚申塔です。

▲大倭神社の庚申塔

辻の庚申塔（西区大字指扇領辻）

高さ257cmの市内最大の庚申塔です。大倭神社の庚申塔と同様、笠の上に一匹の邪鬼に座った丸彫りの青面金剛像が乗ります。塔身は上から二童子、力士と思われる像、二鶏、三猿を配します。寛保２年（1742）辻村の山口杢右衛門が立てたものです。

庚申塔―寛保二壬戌歳正月吉日造立ノ銘アリ―（緑区大字三室）

赤山街道の北側、直径約４メートル、高さ約１メートルの「さるまん塚」と呼ばれる塚上に立つ高さ250cmの庚申塔です。塔身の正面に浮彫りで、二童子を従え、一匹の邪鬼を踏んだ青面金剛像とその下に四夜叉を、台石には三猿と二鶏、笠には日月をそれぞれ浮彫りにします。寛保２年（1742）に三室村宿組の講中によって立てられたもので、道しるべとしての機能も持つ庚申塔です。

板碑形の庚申塔

庚申塔―寛文八戊申年十一月吉日造立ノ銘アリ―（南区南浦和１丁目）

大谷場小学校北脇にある高さ62cmの庚申塔です。正面には梵字の「カ」（地蔵菩薩種子）、三猿を線彫りし、清宮利右衛門以下講中名を刻みます。左右に「寛文八戊申年十一月吉日」「庚申講」「大谷場村」とあり、寛文８年（1668）に立てられたことがわかります。

寛文十三年銘の庚申塔（中央区大戸）

大戸不動堂境内にある高さ107cmの庚申塔です。正面上部に阿弥陀三尊像、その下に三猿を浮彫りにしています。基部には僧侶の「円能房」をはじめ13人の名を刻みます。寛文13年（1673）に立てられた庚申塔で、僧侶が指導者となり、地縁的な結びつきによって庚申信仰が行われていたことがわかります。

▲寛文十三年銘の庚申塔

延宝二年銘の庚申塔（中央区上落合）

上落合地蔵堂の門前にあるこの庚申塔は、「青面金剛」などの像や「庚申塔」などの文字を刻まずに、健康を願う願文のみを７行にわたって刻んでいる高さ90cmの庚申塔です。延宝２年（1674）、血縁の結びつきによる一族10名によって立てられています。

駒形の庚申塔

延宝三年銘の庚申塔（中央区上落合）

上落合地蔵堂門前の覆屋内に立てられた高さ143.3cmの庚申塔です。塔身の最上部に梵字で「ウーン」（青面金剛種子）を陰刻し、青面金剛像と三猿を浮彫りにします。延宝３年（1675）、この地にあった観蔵院の僧侶が指導者となって、地縁的に結ばれた12人の講により立てたことがわかります。

清泰寺の庚申塔（緑区東浦和５丁目）

清泰寺の境内には、天明３年銘（1783）の舟形に青面金剛像を浮彫りしたものが１基、万延元年銘（1860）の自然石に「庚申塔」と刻んだものが１基、また、天明３年銘及び万延元年銘の駒形のものが349基の計351基の庚申塔が垣根のようにめぐっています。駒形の庚申塔は、高さ54cm、正面に「庚申塔」と大きく刻み、その左側に地名と人名を一基一基に刻んでいます。その範囲は近隣の村々はもちろん、東京や千葉にまで及んでいます。

▲清泰寺の庚申塔

TOPIC

●通船堀閘門開閉実演

8月26日、国指定史跡見沼通船堀東縁において閘門の開閉実演を行いました。実演では、水位の調節を主に、関の間に船を浮かべて往時の姿をしのびました。

●最新出土品展

10月2日から6日間にわたり、大宮西口共同ビル（DOM）内で最新出土品展を開催しました。市内17遺跡から出土した100点余りの資料と30枚のパネルを展示しました。

●「砂の万灯」公開

10月28日から11月7日まで見沼区役所内で「砂の万灯」が公開されました。7組あるうちの1組、一番大きな「本村組」の万灯が区役所を訪れる方々の目を楽しませました。

▲見沼区役所に飾られた本村組の万灯

文化財保護日誌

15.7.1　関東甲信越静ブロック埋蔵文化財諸問題検討委員会
県指定「白鍬遺跡出土須恵器壺」他貸出（埼玉県立博物館・～9.12）
7.2　所在場所変更（別所遺跡出土和泉式土器他）
7.3　B-29号遺跡確認調査
7.4　南2号遺跡・神明遺跡確認調査
7.7　文化財現況調査（上大久保氷川神社本殿）
南部領辻西原遺跡確認調査
7.8　指定書交付式
7.9　文化財調査（辻・万蔵寺）
7.10　東宮下原口遺跡確認調査
7.11　西浦1号遺跡確認調査
7.12　文化財現況調査（法光寺のイヌツゲ、清河寺の大ケヤキ、秋葉ささら獅子舞、田島の獅子舞、宿の祭ばやし、神田の祭りばやし）
7.13　文化財現況調査（砂の万灯）
7.14　岐阜県郡上郡美並村、市指定「薬王寺円空作仏像郡」他見学
宿宮前遺跡・大久保新田遺跡確認調査
7.16　文化財現況調査（上大久保氷川神社本殿）
7.17　松木遺跡確認調査
7.18　C-64号遺跡確認調査
7.19　県指定「白鍬遺跡出土須恵器壺」他公開（埼玉県立博物館・～8.31）
市指定「井沼方遺跡方形周溝墓出土品」他公開（さいたま市立博物館・～9.7）
7.20　文化財現況調査（木遣歌、駒形の祭ばやし、宿の祭ばやし、神田の祭りばやし）
7.22　太田窪本村東遺跡確認調査
7.23　B-92号遺跡・側ヶ谷戸貝塚確認調査
7.24　椚谷遺跡・西堀上ノ宮遺跡確認調査
7.25　全史協関東地区協議会総会及び研修
市指定文化財「武笠家表門」修理（～12.25予定）
文化財調査（細淵家住宅）
道祖土向原遺跡確認調査
7.28　下大久保新田遺跡発掘調査（～7.30）
7.29　今宮1号遺跡確認調査
7.31　文化財現況調査（氷川女体神社の名越祓え）
さいたま市文化財マップ刊行
馬場東遺跡・椚谷遺跡確認調査
8.1　比企地区文化財担当者研修会出席
8.4　側ヶ谷戸貝塚発掘調査（～8.7）
椚谷遺跡発掘調査（継続中）
8.5　文化財現況調査（氷川参道の並木）
御蔵山中遺跡確認調査
西堀上ノ宮遺跡発掘調査（～8.27）

さいたま市文化財時報
埋りぼーと　第11号
平成15年12月22日
《編集・発行》
さいたま市教育委員会 生涯学習部 文化財保護課
〒330-9588　さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号
E-mail　bunkazai-hogo@city.saitama.jp
☎048-829-1723

R100